

学校だより

R 6 . 4 . 2 5 発行

清水小学校

しみず 4月

家庭数

笑顔があふれる学校に

校長

若草が萌えたち、春も深まってまいりました。保護者の皆様、お子様のご入学、ご進級おめでとうございます。校長の桐山真美です。このたびの異動で、愛媛大学教育学部附属小学校から転任してまいりました。

正門横の見事な桜、フラワーパークの花々、温かい地域の方々、そして、かわいい子どもたち……初日から、素敵な出会いがあり、「清水小学校に来てよかった！」と心から感じました。

この春、清水小学校は65名の新入生を迎え、全校児童410名、16学級でスタートしました。令和6年度の当初にあたり、清水小学校がめざす学校像をお伝えしたいと思います。

私たちがめざしているのは、「笑顔があふれる学校」です。

子どもたちが笑顔で元気に活動できる学校。教職員も笑顔で自分のよさが発揮できる学校。それを見守る家庭や地域の皆様も笑顔になる学校。そんな学校になることを願ってやみません。

校訓「にこにこ いきいき はつらつ」のもと、伝統ある清水教育を継承し、「生きる力」の根っことなる郷土への愛着や誇りを育みながら、一人一人のよさや可能性の伸長、「いきがい交流センターしみず」の皆様との交流に象徴される人と人との絆づくり、社会性等の育成にも引き続き努めます。

保護者の皆様、地域や関係諸機関の皆様、本校の教育活動に対しまして、引き続き、ご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



「当たり前」から「有り難い」に

生徒指導主事

清水小学校に来て、今年度で2年目となりました。410人の清水っ子が「にこにこ・いきいき・はつらつ」と過ごすことができるよう、生徒指導主事という立場で力を尽くしていきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

最近の世の中は、生活を取り巻くものやサービスが過剰に豊かになり、どんなことをしていてもそれが「当たり前」と感じやすくなっているように思えます。私は、登校指導に行く前に、自分の教室の鍵を開けてから外に出るようにしています。しかし、それを「当たり前」とすると子どもたちが感じてしまえば、教室の鍵が閉まっていたときに「なぜ開いていないのか」と思い、「当然、開けているべきだろう」と怒りの感情までも生まれてきてしまいます。

これは、人との関わりの中でも同じことが言えると思えます。「子どもだから、〇年生だから、できて当たり前」、友達だったら「当然、こうすべきだ」、大人は「こうあるべきだ」と考えていては、相手のよさなど少しも感じることはできません。「ここまでできるようになった、有り難い」「こんなこともしてくれるのか、有り難い」、「つらい時に優しく声を掛けてくれた、有り難い」などと考えることができると、そこには怒りではなく、感謝が生まれてくると思えます。

何をするにも「当たり前」と感じやすい時代だからこそ、周りの大人が、「今の状況は「当たり前」ではなく「有り難い」ことなのだ」と子どもに教えてあげること、感謝の気持ちを持った心優しい子どもに育つように思えます。

今年度も清水小学校では、いじめ0の学校づくりのために、次のような取組みを継続していきます。いじめの芽を見逃すことなく、一つ一つ丁寧に対応し、解決していききたいと考えています。

- (1) 毎月末に学校生活アンケート・個別の教育相談を実施します。
- (2) 悩み相談の窓口として、「いじめ実態把握専用メール」を運用し、メールによる相談の受付を行います。メールアドレスは、sos-s.shimizu001@matsuyama-edu.ed.jpです。
- (3) 「いじめ防止対策推進法」を受け、本校で「松山市立清水小学校いじめ防止基本方針」を策定し、清水小学校ホームページに掲載しています。

アドレスは <http://matsuyama-shimizu-e.esnet.ed.jp/>です。

- (4) 「ネットを介したいじめやトラブルを防ぐためのまつやま子ども行動宣言2022 ①送る前に受け取る人の気持ちを考えよう②一人で抱え込まず、誰かに相談しよう③家族と使い方のルールを決めよう」の三つについて子どもたちに指導していきますので、御家庭でも御指導をよろしくお願ひします。

家庭・地域・学校が思いを一つにして、清水っ子を見守っていければと思えます。1年間、よろしくお願ひいたします。